

令和5年5月20日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

令和5年度 第5回

おはようございます。ただ今、田島監事の開会挨拶の中で「思いやり」という言葉が出ました。今日の論語のテーマ「仁」は、思いやりという受け止め方で聞いて戴いてよろしいと思っています。また田島監事は知識についても触れました。知識と智恵は違います。知識がどんどん増えてくると、突然どこかでそれが智恵に変わります。ですから今自分が持っている知識は単なる知識なのか、それとも智恵に変わったものなのか、時々考えると良いでしょう。

では、論語に参ります。ご一緒に素読を致しましょう。

(素読)

今日のテーマは「仁」、一言で言えば思いやりです。自分で自分のことを考えてみて、自分は知者（知識をたくさん持っていて、それを色々な行動に結び付けていく）に近いのか、それとも仁者（思いやりの気持ちをたくさん持っているから、仁の入口に立っている）に近いのか。どちらにより近いのか、又どちらを目指すかで、味わい方が変わると思ってお下さい。

では、一つずつ解説を致します。

① こうし いわ 孔子 曰く、こうげんれいしょく 巧言令色、すくな 鮮きかな仁。じん

(学而第一・3)

「孔子曰く」の「孔子」は、名前ではありません。「子」は先生という尊称です。フォーラムに参加して間もない方もおられますから、「いわく」と「のたまわく」の読み方の違い、何故そういうふうになったかもお話しておきましょう。

「曰く」は、ひと昔前は「のたまわく」とごく当たり前に読んでいました。但し、孔子に対してのみ、「のたまわく」という読み方をしています。

もともと日本に漢文が入ってきた時は、白文です。当然ルビも句読点も入っていませんから、どうやって読むか分からない。それを日本人が一生懸命考えて、日本語読みにしたわけです。その際、自分より遥かに上の人である孔子の恭しさを出すために、「のたまわく」と読んだのです。

「のたまわく」と読んだ場合は、「孔先生がおっしゃるには・・・」というニュアンスです。

「いわく」の場合は、「孔先生が言うには、言われるには…」くらいでしょう。今は、大変丁寧な「おっしゃる」という「のたまわく」を使わなくなっています。終戦後そういう流れが出て、それが定着し、現在は小学校で論語を教えているところでも、やはり「孔子曰（いわ）く」と読むのが普通になっているようです。

「孔子曰（いわ）く」と読んでも「孔子曰（のたまわ）く」と読んでも同じように聞こえますが、「孔子がおっしゃるには」と読んだ時に受ける感覚と、「孔子が言うには」とでは違います。尊敬の念が伝わらなくなります。「のたまわく」（おっしゃるには）と読んだのは、元々の漢文（白文）を日本人に分かるよう翻訳をしているわけです。明治維新の頃であれば、素直にすっと理解出来たわけです。素晴らしい能力で日本人は漢字を吸収したのだなとつくづく思います。

では、解説致します。ここは、自分自身で考えると少し難しい問題がありますから、自分の周りを見渡して、そういう人がいるかなと思いつつ読まれると良いでしょう。

「巧言」は、腹の中はどうあれ、口が達者。「令色」は、表情が非常に素晴らしいが、腹は見えない。ご機嫌をとるのが上手い人です。

口先だけ達者で、するっと入り込む。最終的に自分だけ儲ける。そういう人間が多くなって、仁の徳を目指している人たちが大変少なくなった。

・・・思いやりに溢れている人間はなんと減ったことだろうねえ、と慨嘆しています。孔子の時代でそういうことを言っているのですから、今の時代は更に拍車がかかっていますね。

私は新聞の連載小説が好きで、先ほどは日経新聞の連載小説を読みました。明治の外交官、陸奥宗光が面白く描かれています。今日の内容は宗光が青年の頃で、一生懸命儒学（漢文）を勉強していますが、儒学は古いので洋学を勉強したいと思い、その道に進んでいるところです。儒学を教えてくれた先生の所に退塾の挨拶に行く場面で先生から、「君が儒学から離れるのは分かる。けれどもいつか時代の波に飲み込まれ、失意のどん底に落ちることがあるかもしれない。その時、君を支えてくれるのは、心のふるさとになっている儒学かもしれない。そう思ってこれから新しい学問を身につけていきなさい」と言われます。その言葉が十数年後、遠い山形の獄中で、宗光の脳裏に甦ることとなるわけです。

上毛新聞の連載小説は、郵便の父と呼ばれた前島密が主人公です。前島密が若い頃どういった勉強をし、歳を重ねるにつれてどう心が磨かれていくかが描かれているので、こちらも楽しみに読んでいます。

上毛新聞は群馬の地方新聞ですが、昨日は栃木におりましたので、下野新聞を見る機会がありました。下野新聞は同じ前島密の小説をかなり先に進んで載せているので、栃木に行った時は下野新聞を探して、先はこういう展開になるのかと楽しみながら読んでいます。

なぜ地方新聞が同じ小説を載せているかという、コストをかけないためです。地方新聞には、小説も同じものを掲載したり、記事もそっくり同じということが結構多いのです。コスト削減に色々な智恵を絞っているのが、そこら辺でも見えてきます。

各新聞社とも生き残りをかけて、コスト削減のために相当手を組んでいます。それから、収入を図る上では広告です。ひと頃と比べると、嫌になるほど広告が増えていきます。

このように一つの連載小説を見て、地方新聞のあり方はどうなのか、地方新聞は潰れるのか潰れないのか、収入はどうやって得ているのか、支出はどう抑えているのか等々、横の知識から深堀りをしています。

もう少し深堀りをする、新聞社はたくさん広告を出すスポンサーの言うことを聞かなければならなくなる。その新聞社に広告を出している、新聞社に利益をもたらすのは一体どこなのか。電通が力を持った事は、そういうところに繋がります。

世の中を見る時の判断基準として、どこからお金が出て、最終的にどこが一番利益を得るのかを辿ってみる。新聞社で見れば、どこからお金が入ってくるのか。最終的にその新聞社が儲かったなら、いったい何をして儲けたのか。そういう話が深堀りの最終地点です。

誰がお金を出して、利益がどう回り、最終的に誰が最大利益を得るのか。そういう判断・見方をすると判断基準が一つ確立します。

② しいわ子曰く、ちしや みず たの知者は水を楽しみ、じんしや やま たの仁者は山を楽しむ。ちしや うご知者は動き、じんしや しず仁者は静かなり。
ちしや たの知者は楽しみ、じんしや いのちなが仁者は 寿 し。

(雍也第六・21)

知者と仁者が対照されています。

「知」は知識ですから、色々な事を知っているという意味です。

私は人から「深澤さんは百科事典みたいだ」と言われることがあります、単なる百科事典というのは蔑称だと思っています。自分で調べずに、何でもすぐに人に聞くというのはいけません。もっとも今はスマホが手元にあって、調べれば何でもすぐに教えてくれます。私が知っている知識よりも遥かに色々な知識がネットに溢れています。

この場合の「知者」とは知識人、横に広がる知識ですから、百科事典と思っていただいても良い。ただ、知識がずっと溜まって熟してくると、智恵に変わります。智恵は、知識

の「知」とは違います。「悟る」という意味の入る「智慧」になります。それが更に進めば、般若の智慧（真理を悟ること）になります。

知者（沢山ものを知っている人）は動き回ることを楽しみにしている。したがって水を楽しむ。・・・水は流れますから、その中でマグロのように動き回るイメージです。私も自分で動き回らなくなったら、あの世だと思っているので、まだ知識人の部類でいると思っています。

仁者（仁徳のある人）は、動かないでどっしり構えている。したがって山を楽しむ。・・・仁徳のある人は結構、山ごもりをする人が多いと私は捉えています。孔子が顔回を素晴らしいと評価したのは、顔回は喧騒の中にも山を楽しむような心境にいるからでしょう。

知者は現世の幸せを楽しむ。・・・お金がそこそこあって、健康である。ほどほどによく生きてきたなという現世の幸せを楽しむような人生になる。

仁者は長生きをする・・・はっと気がついたら、もう百歳を超えているのかというような長命になる。孔子自身、当時で見ればとても長命でした。

③ しいわ 子曰く、ちしや まど 知者は惑わず。じんしや うれ 仁者は憂えず。ゆうしや おそ 勇者は懼れず。

（子罕第九・28）

これも有名な言葉です。知者・仁者・勇者の三つを評しています。

知者（智慧のある人）は、そうそう迷うことはない。・・・これは知識人ではあるけれど、だんだん智慧に変わってきています。中斎塾フォーラム流に言えば、判断の三原則が身に付いて、大きな問題が起きた時にも判断の三原則（本質・歴史・大局の視点）で見ることが出来る。

仁者（仁徳のある人）は、くよくよ心配をしない。・・・「人間万事塞翁が馬」ということになります。

勇者（勇気のある人）は、人や物を恐れることはない。

ロシアとウクライナの戦争が長引いています。今後も長引くでしょう。そういう点で見ましょう。

知者は惑わず・・・ウクライナ側の視点で見れば、判断基準がだいぶ出来上がっていて、NATOから色々な物資を応援してもらっています。ちなみに、NATOは軍事同盟です。誰か一人がいじめられたら、皆でいじめた人間を袋叩きにしよう。一人では対抗出来ないけども、たくさん集まればやっつけられるということです。NATOという軍事同盟が背

後にいるので、ウクライナ側は迷うことが少ないと考えます。

仁者は憂えず・・・ウクライナもロシアも、仁徳があるかというと甚だクエスチョンマークですが、どちらもハラハラドキドキ、心配しっぱなしです。外側にいるアメリカやヨーロッパの国々も心配のしっぱなしですし、中国も心配でどうにもならない状況です。NATOという軍事同盟に対して、ロシアは中国と北朝鮮が軍事同盟のようなものですから、軍事同盟と軍事同盟が対向しあっている現状です。

勇者は懼れず・・・ロシアもウクライナも勇者まがいです。腹は懼れていても、怖がらないポーズはとっているように見えます。

④ しいわ とくあ もの かなら げんあ げんあ もの かなら とくあ じんしゃ かなら子曰く、徳有る者は必ず言有り。言有る者は、必ずしも徳有らず。仁者は必
ゆうあ ゆうしゃ かなら じんあず勇有り。勇者は必ずしも仁有らず。

(憲問第十四・30)

仁徳のある人は必ず、なるほどなと思う良い言葉を言うものだ。

・・・孔子がお弟子さん達に教える時、お弟子さんたちは、これは忘れてはいけない良い言葉だと思うものを、自分の帯の端っこに書き留めました。それが論語の原型です。孔子自身も、昔から伝わっているもので良い言葉を弟子に伝えています。ですから仁徳のある人は立派な言葉を残しています。会社でも組織でも、仁徳のある人がその中にいれば必ず、なるほどという言葉が残ります。「一日一言」なるものも、世間で広がっていますね。対して、

立派な良さそうなことを言うからといって、仁徳があるとは言えない。

・・・自分で納得しないけれども、この言葉はカッコいいから使ってみようという人は世の中に溢れています。カッコいい事を言う人に、もう少し詳しく教えて下さいと聞くと答えられない。それは一知半解です。ちょっとだけ内容を知っている、ちょっとだけ意味がわかる。それで全部知っているような調子で話をするからいけません。

仁徳のある人は、必ず本物の勇気を持つ。

・・・孔子は、命を狙われて死ぬかもしれないという場面でも、「私は天から使命を受けているから、死ぬことはない。与えられた使命を果たすまでは、天が私を生き延びさせてくれるであろう」と、困難に屈服しませんでした。

勇気のある人間が、必ず仁徳があるとは限らない。

・・・偽物は勇気があるように見せるけれども、本当に戦場に出た時は、馬脚を見せることになる。

⑤ 子曰く、君子の道なる者三つあり。我能くすること無し。仁者は憂えず。智者は感
わす。勇者は懼れずと。子貢曰く、夫子自ら道えるなりと。

(憲問第十四・30)

君子のなすべき道は三つある。ただ、私はまだ君子ではないから出来ていない。

・・・私は心配事がよくあるし、迷う事も沢山ある。なかなか勇気を持ってない、と孔子が自分を振り返って、私は君子ではないと言ったわけです。

それを聞いて子貢が言いました。

先生は自分を振り返っているから、そういうことを言われるのでしょうか。

・・・先生が心配している姿など見たことがないし、迷っているのを見たことがない。勇気がないとは全く感じません。弟子の私たちから見れば、十分にお出来になっていますと言っています。

子貢は、目から鼻に抜けるような、とても頭の良いお弟子さんです。孔子が弟子たちを連れて諸国を歴訪する事が出来たのも、子貢がお金を稼いだからです。その子貢と孔子の問答で、こういう話があります。

孔子が子貢に、「お前から見て、顔回はどうか」と聞きます。子貢が「顔回は、一を聞いて十を悟る事が出来ます。孔先生が言われことを、即座に飲み込んで納得してしまう。とても私の及ぶべきものではありません」と答えます。更に「お前はどうか」と孔子に聞かれて、「私は顔回に及びませんが、先生が言われたことを一つ聞いたら、二つ位は大体分かります」と答えたとありますから、子貢は相当な自信家ですね。

⑥子夏曰く、博く学んで篤く志し、切に問いて近く思えば、仁 其の中に在り。

(子張第十九・6)

「博く学ぶ」とは、横の知識をどんどん広げていくことです。もちろん主軸になるのは縦の学問、則ち自分自身の哲学です。

子夏が言うには、広い目線で学び、心の底から知りたいと志を立て、自分の身近で追及し続けていけば、仁は自ずから分かるものだ。

日本には四文字熟語が多いですが、四文字熟語は漢文から出ています。漢文は日本人にとても受け入れられたのだと思います。ここには、「切問近思」という四文字熟語があります。意味はご自分でお調べ下さい。

ちなみに、「切磋琢磨」という四文字熟語があります。前理事長の猪瀬さんから切磋琢

磨は宝石を作る時の工程だと教えて戴きました。宝石の作る過程と、独立して会社を發展してゆく過程を対比しながら、私は説明しています。

「切」は、鋭く尖ったもので、スパッと切るという意味合いです。掘り出した原石をよく見ると、どこで切断すればよいかが見えてくるのだそうです。その筋目通りに刃を入れるとスパンと切れる。起業する人で言えば、勤めていた会社を飛び出し、独立する段階です。

「磋」は、切り出した原石を鑢で研ぐ工程です。鑢で研ぐとだんだん光沢が出て来て、綺麗な石になる。人間で言えば、飛び出した人が社長として滅茶苦茶に働く段階です。

「琢」は、砥石で砥ぐ段階です。見た目にはきれいな宝石ですが、顕微鏡で見るとまだまだ粗く、一流の商品としては言えない。一生懸命働いて仕事がどんどんどんどん増え、知らず知らずの間に良い循環が生まれ、利益も出るようになる。ライオンズやロータリー、同友会等の団体に入って、周りからの信用も生まれる。けれども時々道楽もして、後ろめたい事もしてしまうような状況になっていたりします。

最後の「磨」は、金剛石（ダイヤモンド）で磨く。ダイヤモンドで磨くと本当に素晴らしい超一流の宝石になるそうです。仕事を自分で取って歩かなくても、名前を聞いてどんどん仕事が入って来るようになります。

時事評論

三つのキーワード（戦争・コロナ・金利）

では、テーマに参ります。年初に、今年を考える上でのキーワードを三つ（戦争・コロナ・金利）申し上げましたし、何回も取り上げています。

三つのキーワードのうち、最初にコロナについて申します。コロナに対して最初に厚生労働省が医療関係者に出した指示は、コロナ感染者が亡くなった場合は全てコロナ死として届け出るというものでした。例えばコロナの感染者が肺炎で亡くなった場合、コロナ死亡と届けるように…というのが厚生労働省の最初の指示でした。今は違います。皆様ご存知と思いますが、コロナ感染者が肺炎で死亡した場合、コロナ死として届けるのではなく、肺炎で届け出なさい…と正反対の指示になっています。なぜそうなるのでしょうか。政府が自分たちの都合のいいように発表の仕方を変えているからです。

コロナに関して私が当初氣になったのは、「副反応」という言葉でした。「副反応」という言葉がなぜ急に出てきたのか。調べてみると、政府が推奨したワクチンを打った人に酷い副作用が出て、全国各地で裁判が起きた。結果、政府は全て負けました。その後、政府は法律を変えて、ワクチンは打ちたい人は打っても良いし、打ちたくない人は打たない

でも良いという任意接種になりました。

そういう過去の政府の行動を確認して、私はワクチンを打たないと決めました。では何を信用すれば良いか考えた結果、コロナで亡くなった人数だけを把握をしようと決めて調べていったわけです。

コロナで死亡した人は、初年度 2020 年は 3,500 人弱でした。2 年目 2021 年は 15,000 人弱、3 年目 2022 年は 4 万人弱でした。ここら辺は鰻上りに死亡者が増えているという報道の仕方ですから、それはそのまま受け止めています。翌年、つまり今年 2023 年の 1 月が 11,071 名でした。2 月が何にもしないにも関わらず 3921 名に減りました。3 月は 1436 名に減りました。4 月は 611 名に減りました。なぜこうも劇的に減ったのでしょうか。政府の都合で、発表の仕方を変えたからです。結果として、私はコロナに関する発表の仕方を変えざるを得なくなりました。今後は、「昨年は何名亡くなって、内訳はこうです」という言い方をしようと思っています。

コロナの死者は何名でどれくらい増加したかについては、学者の先生方が発表しているので、ネット見ればいくらでも出てきます。ただし、その原因ははっきりしてはいません。有力なのは、「コロナによる死亡ではないかと推測される」という表現が増えました。それからもう一つ、「先進諸国でワクチンを沢山打った国ほど、感染者が増えている」という言い方になっています。

日本もワクチンをせっせと打って、感染者が増えました。因果関係がどうあるか分かりませんが、私が言えることは、皆さんが何回コロナワクチンを打ったか存じませんが、ワクチンはもう打ち止めにしましょうということです。ですから私は今、「ワクチンはこれ以上打たないようにしましょう」と、あちこちでお話しています。何故かと聞かれたら、「ワクチンを打って死ぬのは嫌だから」と言っています。

皆さんにお考え戴きたいのは、コロナワクチンを作って、どこが儲かったのでしょうか？

次に金利について申します。黒田前日銀総裁は辞める時、金利を上げる動きをしたことによって、次の総裁が仕事がしやすくなるような置き土産をして辞めたなと思いました。後任を探すのに岸田首相が出した条件は、国際的に顔の利く学者、国際的に人脈のある人、尚且つ黒田さんの方法を踏襲してくれる人・・・と、これにピッタリ当てはまったのが上田総裁ということだったのでしょう。上田総裁はその通りの動きで、金利を少しは上げるというポーズをとっていますが、金利を上げれば、日本が経済破綻を起こすことに直結するので、上げることが出来ないわけです。

日本の国が経済破綻を起こすということは、日銀が倒産するという意味に繋がります。

日銀が債務超過になって倒産したら、日本の国は経済破綻し、食料も輸入出来なくなる。つまり、日本人が食べていけなくなるのが目の前に見えています。

日銀が債務超過を起こしても、お金が回っている間は倒産しません。会社も債務超過を起こしたからといって潰れませんね。日本の国がせっせとお金を刷っている間は倒産という言い方にはならないでしょうが、凄まじいインフレが起きます。日銀が金利を上げたら、ハイパーインフレが起きる。即座に起きるわけではありませんが、時間をかけてハイパーインフレに繋がっていくという意味です。

日本の場合はかつてハイパーインフレが起きました。終戦直後、物価が100倍になりました。1円で買えたものが、半年から1年で100円になってしまうわけです。それでも世界で起きたハイパーインフレから見れば、大した数字ではありません。終戦直後はそういう動きが日本で起きました。金利を上げるということは、それに直結してきます。ですから金利は上げようがない筈です。ですから金利は当分の間、若干上がってもほんの少々しかいかない。そう考えて戴いて良いでしょう。

最後に戦争について申します。ロシア・ウクライナ戦争は、ロシアが諦めない限り、終わりません。ロシアが戦争をやめたと言えれば終わると言われるけれども、ロシアは引けないでしょう。

繰り返しになりますが、昨年10月にロシアの駐日大使にお会いした時、私が「日本では喧嘩は先に手を出した方が負けと言います。ロシアはなぜ先にウクライナに手を出したのですか」とお聞きしました。それに対する返答は、「とんでもありません。我々が先に攻められました。自己防衛のために、やむなくウクライナに手を出したのです」というものでした。我々の思っている話とは違いますね。

今や世界の常識は、戦争を始めたのはロシアということになっているけれども、彼らからすると、アメリカが率先してフェイクニュースを流し続けた結果、世界にそれが定着してしまったという話です。

ロシアの駐日大使は、アメリカとロシアは現在ハイブリッド戦争中であるということを明確に言っていました。ハイブリッドと付いていますが、明らかにアメリカと戦争をしている最中だという認識を持っていました。

ということで、ロシアはアメリカNATOと戦争をしている真っ最中だと思っている。お互いに、責められたから仕方なく戦っているという大義名分を持っているので、そう簡単に戦争は終わりません。決着がつくのはまだまだだと思います。前から申し上げている通り、本当に数年かかると私は思います。

ただそういう状況下で怖いのは、この戦争から飛び火をして第3次世界大戦が始まることです。第3次世界大戦が始まるとすれば、出だしは又、朝鮮動乱ではないかと思っています。韓国・台湾・北朝鮮が絡まったの第3次世界大戦の付け火のようなものが始まった時は、危ないと思います。特に台湾に飛び火する。下手をすると、北方領土でも火がつく可能性は高いと私は思っています。北方領土にはロシアが今、ちょっかいを出していますから。同時進行で小さな戦争が日本の周辺でいくつも始まる。そして日本は巻き込まれる。・・・今、そういう状況になっています。既に導火線には火がついています。ただ、必死に火消しもしているから、途中で火が消えるかもしれません。

戦争について今の私の認識は、導火線に火がつき少しずつ動いているという状況だと思っています。決して対岸の火事ではありません。

恒例の質問

では、恒例の質問をさらっとお聞きします。

- 今年に入って、良い日がずっと続いている方
- 今年に入って、嘘はつかなかったし、嘘をつかれることも比較的少なかった方
- 有難うと言うことが多いし、有難うと言われることも多かった方
- 御自分の感覚で、身体の手入れをよくやっている方
- 自分磨きをよくやっている方
- 昨晚眠る直前、明日以降を過去形で考えた方

残りの時間でテーマ「令和5年を考える」を申し上げます。

・繁栄か没落、岐路の年

今年は、没落に向かって間違いなく舵を切りました。そう私は思っています。ということは、これから何年かしたら食べ物が極端に減ってくる。ですから自給自足の準備をして下さい。毎年毎年やっていないと、急に今年だけじゃが芋を作ろうと思っても出来ません。

・コロナは死亡しないことが肝心

死亡しないことが肝心ですから、まず罹らないことです。しかし今は、死亡してもコロナで死亡とはカウントされません。いずれにしてもコロナに罹らないためには、何度も申し上げますが、よく食べ・よく眠り・よく動く。私は今、心の底からそのようにしたいと思い実行し続けています。ワクチンは打ちません。

・今年は騙されないように

テレビ、ネット、新聞、あらゆるものがフェイクニュースだと思って下さい。言い換えると9割9分、後ろで誰かがやらせていると思って下さい。日本人はこちらの方向に進んでもらおう、そのためにこういうニュースを流そう、こういう広告を打とうと誘導しています。前からこの話を聞いている方は、極端に変わったと思っておられるでしょうが、メディアの9割方は全部フェイクで、1割ぐらいは本物が混ざっているかもしれない、そういう見方で私はおります。

そう考える一端を申します。先週、政府は生成AIを活用するためのルールを議論しようということで初会合を開きました。生成AIについて、イーロン・マスク氏はどこまでいくか分からないから、少なくとも1年や2年はストップさせるべきだと訴えています。少なくともきっちり議論をして、ストッパーをきちんと作ってからでなければ駄目だという言い方をしています。

その理由はどこも書いていませんが、言えることは宇宙の覇権争いにあります。今、宇宙の覇権争いをしているのは、アメリカと中国とロシアの三ヶ国、それに割って入ろうとして動いているのがインド、イギリス、イスラエルです。内容は、こういうものが危惧されています。

これからお話しする事は、どこにも書いていません。なぜなら私の頭の中で作り、話していますから、そんな馬鹿な！という話をします。

例えば生成AIを使って、「アメリカが倒産した。バイデンさんが自殺をした。証拠はこれだ！」と作ります。本物だと信じるようなフェイクニュースを流します。或いは、プーチンさんの若い頃の写真、大統領就任の頃の写真、今の写真をフェイク画像で並べて、「プーチンさんは本当は宇宙人だった。従ってロシアがどういう動きをするか、こう予測を致します・・・」のような、本物だと思わせるニュースが流れます。

もう一つ、ワテルローの戦いみたいなことをやりますよ。ワテルローの戦いで、ロスチャイルド家は巨万の富を蓄えたわけですが、それは情報操作をしたからです。イギリスとフランスが戦っている最中、ロスチャイルドは伝書鳩を使ってイギリスが勝ったという情報をいち早く手に入れました。同時に、たくさん所有していたイギリスの国債（公債）を、がっかりした顔で全部売り払った。当然、その噂が広がって皆が公債を売りに出します。公債が暴落したのを見て、ロスチャイルドは金をかき集めて、それを残らず買い占める。結果、一つや二つの国家など軽く買収できるぐらいの金を握ったわけです。2年前の数字だと思いますが、ロスチャイルド家は5京6800兆円の財産を一族で持っています。1京とは、天文学的な数字でピンときませんが、1000兆の10倍です。そういうべらぼうな大金

持ちの範疇を超えた人類が、現に今いるわけです。

話を戻しますと、生成A Iが、「大変だ！世界大恐慌が始まった。世界各国の株が暴落を始めた」という画像と情報を作って、一斉に流す。単なるニュースだから、現地はそんなことはないわけですが、それにも関わらずダアアッと株が暴落をするでしょう。それを裏で買い占めて、復旧した時にはまたべらぼうな金持ちが生まれる。

・・・そういうことを生成A Iはやるぞ！ という話が一部に出回っていて、それらの恐怖に煽られた人たちが、生成A Iにストッパーをかけなければいけないと動いているわけです。そういう無茶苦茶な議論は一切出ていませんね。申し上げたように、私の頭の中で作り上げたお話ですから。でも、それらをまことしやかに尤もらしい議論に変えて、国会で議論していることでしょう。

今後は騙されないように！ ということで、世界を揺るがすような尤もらしいニュースが流れたなら、現地に住んでいる人間と連絡を取り合うことが第一です。そう申し上げて本日の講話を終了致します。有難うございました。